

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立本通小学校	校長氏名	吉貞 至誠	生徒指導主事氏名	下河原 しのぶ
-----	----------	------	-------	----------	---------

取組事例名 『なかよしサポーターを生かした全校いじめ撲滅運動』

取組のねらい『キーワード：児童主体のいじめ撲滅運動』

いじめ撲滅の意義を理解し、いじめ撲滅のためにできることを話し合ったり、取組内容を決めて活動したりしていく中で、自分達の学校は自分達の手でよくしていこうとする自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード：各学級の「なかよしサポーター」』

1 生活朝会

- ① 今月の生活目標「あったか言葉を広げよう」の紹介
- ② 「いじめ撲滅キャンペーン」についての説明
- ③ 「なかよしサポーター」の募集

2 各学級の「なかよしサポーター」認定講習（校長室）

- ① いじめの構造や「なかよしサポーター」に期待することについての話をする。
- ② 講習後に認定証を渡す。

3 「なかよしサポーター」の活動

- ① 活動内容についての話し合い及び生徒指導主事によるアドバイス

- ② 活動 あったか言葉を率先して使う

あったか言葉を使っている人を見つけて褒める
ちくちく言葉を使っている人を注意する
帰りの会で学級全体で振り返り点検する

帰りの会の後、今日の活動内容と状況を職員室に報告し、教員からアドバイスを受ける等

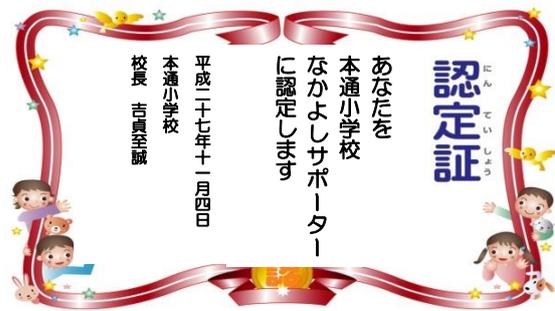
- ③ 教職員は、活動を見守り、報告時には適切にアドバイスし、目に見える評価（認定証にシールを貼る、職員室前の風船の絵に各学級での達成度に応じて色を塗る等）を行う。

4 生活朝会で取組の発表

取組全体の振り返りを各学級代表として、全校の前で発表させる。

5 留意点

- ① 学級担任は「なかよしサポーター」への肯定的評価と活動の価値付けをしっかりと行い、いじめ撲滅への意欲を広げられるようにする。
- ② 「なかよしサポーター」以外にも、委員会等を活用し、いじめ撲滅等のよりよい学校作りにつながる活動を奨励し、積極的に全校の前で取り上げていく。



〈なかよしサポーター認定証〉

取組の課題・創意工夫『キーワード：児童と共にPDCAサイクル』

ア 「いじめ撲滅キャンペーン」に合わせて、生活目標を「あったか言葉を広げよう」とすることで、「なかよしサポーター」の活動を、具体的に考えやすくした。（「あったか言葉を増やすこと」「ちくちく言葉を減らすこと」等）

イ 「目標→具体的な活動→日々の振り返り→報告→改善→取組の振り返り→発表→今後の目標→・・・」という PDCA サイクルを児童と共にまわすようにした。

ウ 計画の段階で、どのようなことが仕組めそうかもっと細かく吟味しておくことで、「なかよしサポーター」以外の児童にも主体的な活動の場を広げられる可能性がある。

取組の成果（効果）『キーワード：「児童の自主性」「組織的な生徒指導」』

ア 全校で取り組むことで、「あったか言葉を使おう」という気運が高まった。

イ 生活朝会の振り返りの場で「なかよしサポーター」が代表として発表したことで、自分達を感じた率直な感想も交えながら、各学級の振り返りを伝えることができた。そのことで、自分達の手で学校を良くしていこうとする意欲が全校にも広がり、「いじめ撲滅キャンペーン」が終わった後も、悩みを出せる機会として運営委員会が「あったかボックス」を設置する等の自主的な活動が続いた。

ウ 教職員の情報共有に係る意識の高まりも見られた。放課後の「なかよしサポーター」の報告を受けて、各学級のその日の様子や気になる事案について把握した生徒指導主事や管理職等が担任に声をかけることで、児童理解を深めたり、教職員同士で生徒指導上の気になる話が気軽にできるようになったりした。



〈「いじめ0」をよびかける子ども達〉

〈「あったかボックス」の紹介〉

今後の展開『キーワード：問題行動の未然防止のために児童主体の取組で積極的生徒指導を』

ア 「なかよしサポーター」の経験者と今後の希望者を交えた会議の場を設定し、児童が感じている学校の課題を吸い上げたり、学校をより良くするために何ができるかを考えさせたりする。

イ 学校の課題を教職員が把握していることはもちろん、いかに児童から引き出して問題解決に向けて児童自身がやり遂げた取組にしていくかが重要であるとする。問題行動の未然防止のためにも、児童主体になる取組を発表する場や仕掛けを考える必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード：情報交換を自校の取組に生かす』

今回の取組は、週に1回の中学校区生徒指導連絡会の情報交換の中で得たアイデアを生かして、自校で取り組んだものである。また、中学校区の小中一貫教育の中で共通して取り組んでいる「和（なごみ）キーワード」である「思いやり」を活用することで、自校だけでなく、中学校区全体で「思いやり」の育成に効果があった。中学校区で情報交換を活発に行い、成果が期待できると思うことは、自校でアレンジして積極的に取り入れていくことが大事だと感じた。